

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(本郷小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
本郷小	上回った	下回った	下回った
埼玉県	67.0	64.0	65.0
全国	65.6	63.2	63.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	本郷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	96.9	94.8	94.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	87.6	83.0	81.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.6	91.2	90.4
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	9.4	13.0	13.8
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	84.4	74.1	71.1
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	87.5	81.6	78.2
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	90.6	81.7	77.3
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	71.9	61.7	59.4
教科への関心	国語の勉強は好きだ	71.9	60.7	59.2
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	93.1	91.8
	算数の勉強は好きだ	56.2	62.4	62.5
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96.9	94.0	93.3
	理科の勉強は好きだ	62.5	81.1	79.7
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	71.9	78.7	77.2
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	71.9	61.6	58.2
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	65.6	46.6	43.9
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	21.9	23.2	22.5
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	15.6	22.9	21.7
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	21.9	22.2	21.6
その他	自分には、よいところがあると思う	96.9	82.0	79.3
	将来の夢や目標をもっている	81.3	81.3	79.8
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	95.5	95.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	71.9	50.4	52.7

【質問紙分析】

- ・朝ご飯をしっかりと食べたり決まった時間に寝たりすることができる児童の割合が多いのは、各家庭や学校において「早寝・早起き・朝ご飯」を大切にしているからだと考えられます。
- ・「国語の学習が好き」な児童の割合が全国や県の割合と比べて高いのは、「読書通帳」「暗唱課題」「日記」などの学校全体での取組で児童の意欲を高めることができたからだと考えられます。
- ・「理科の学習が好き」な児童の割合が全国や県の割合と比べて低いのは、「将来社会にでたときに役に立つと思う」と答える割合が低いことと関係していると考えられます。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合が高いのは、学校と地域が協力して児童を育て、児童が地域に見守られているからだと考えられます。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 正答率が高かった問題は、知りたかったことの説明として適切なものを選択する問題や登場人物の発言の理由を問う問題です。
- 正答率が低かった問題は、文章をもとに条件に合った文を書く問題や、物語全体を具体的に想像することと物語から伝わってくることを短い文にまとめる問題です。

【算数・数学】

- 正答率が高かった問題は、計算問題や最小公倍数を求める問題、図形を構成する要素に注目して図形の意味や性質、構成の仕方などの基本的な問題です。
- 正答率が低かった問題は、場面の数量の関係に着目し、基準量、日割僚、割合の関係や伴って変わる二つの数量の関係について、日常場面に即して考える問題です。

【理科】

- 正答率が高かった問題は、「生命」を柱とする領域の問題です。また、解決するときに必要な観察の視点を基に解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ問題もできていました。
- ある事象に対し、他者の気づきの視点で分析解釈し、その内容を記述することが苦手な児童が多くいました。また、実験方法を検討・改善し自分の考えをもつことができない児童が多かったようなので、既習事項を活用して考える力を高めていく必要があります。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・文章を正しく書いたり、理解したりするためにも読書活動（朝読書や読書通帳）や日記、授業後のふり返し活動などを継続して行っていきます。また、ただ書かせるだけの活動にならないよう、適切な指導・見届けを行い、児童の書く力と意欲を高めていきます。

【算数・数学】

- ・スクリーニングテストの活用や少人数指導の形態の工夫、ICTの効果的な活用による授業改善を学校全体で計画的に研修を行い、教職員のスキルアップに取り組みます。

【理科】

- ・授業の中で多角的な見方を知り、協働的な学びを行って言語活動の充実を図っていきながら、学んでいることと日常でおきる現象を一致させ、興味関心をもたせる導入の工夫をします。

【その他】

- ・ICTの効果的な活用をしながら授業の質や指導スキルを高め、充実を図っていきます。